



目指す子ども像 ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子ども

東目屋地区コミュニティ・スクール通信

第10号 平成29年12月18日 東目屋小・中学校 文責(佐藤)



地域とともにある学校づくり

社会とつながっている学校

12月2日(土)、東目屋小学校を会場にもちつき会が開かれました。もちつきは、その準備から食するまでが大変なため、現代の一般家庭で行われることは少なくなってきたようです。

でも、東目屋ではもちつきが続けられてきました。かつての東目屋の先輩方がスタートさせたもちつきを、現在のPTAが受け継ぎ、学校行事に協力してくれている姿を見ると、今も昔も「子どものために」という想いが東目屋の根幹にあることが伝わってきます。

コミュニティ・スクールは、学校と社会とをつなぐシステムとして脚光を浴びています。学校での学びが社会とつながることも求められています。

今回のもちつき会を、学校だけで実施することは到底不可能です。学校だけで実施することを想像することさえできません。それほど、もちつき会は、「学校」という空間で、たくさんの方々がつながっているのです。子どもが植えた苗を大切に長期間にわたって育て、餅米を提供してくださったほたるの会の皆様、弘前市指定無形民俗文化財である獅子踊を披露してくださった国吉獅子踊保存会の皆様、もちつきをサポートし元気をくれた弘前大学の学生の方々、お雑煮用の野菜を寄付していただいた皆様、買い出しから仕込み・きな粉餅づくり・後片付けまでしていただいたお母様方、前日の会場準備・当日のもちつき・片付けまでをしてくださったお父様方、田植え・稲刈りの記録を手作りの壁新聞にまとめてくださった広報委員の皆様、そして、ノロウィルスの恐怖を感じながらも子どもたちにもちつき体験をさせたいと願い、衛生面の指導や配慮に気をつけてくれた本校の教職員……。

たくさんの方々、子どもたちのために力を合わせて実施したもちつき会は、価値ある行事であることをこの記事を書きながら実感している私です。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。そして、最後の最後にもうお一人お礼を。

八戸から駆けつけ、この行事のためにリーダーシップを発揮してくださった竹内PTA会長、本当にありがとうございました。(小学校教頭 鎌田悟)



西目屋村民文化祭、東目屋地区文化祭、 中学校生徒も参加

西目屋村民文化祭は11月19日に行われ、東目屋中学校吹奏楽部が参加しました。3年生の部員も含めて14名全員が参加し、アンコール曲も含めて5曲演奏しました。また、11月26日の東目屋地区文化祭には、中学生全員が参加し、合唱を2曲披露しました。



いずれの場合も、保護者以外の人たちへ、中学生の発表を披露できるせつかくの機会です。日頃からお世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを込めて発表しました。

東目屋地区文化祭では、昼の休憩時間に中学校1年生ほぼ全員がボランティアとして食堂や売店のお手伝いにも参加しました。おにぎり、唐揚げなどの販売やそば、うどんづくりを通して地域の方々とふれあうことができました。

毎年5月に行われる小中学校合同運動会や8月に行われ



る中学校文化祭は地域にも公開しておりますので、是非学校へ足をお運びいただき、児童や生徒の活動をご覧ください。

小中一貫教育システム

第2回小中学校合同音楽授業

小学校と中学校がつながっている東目屋



12月6日(水)、東目屋小学校体育館で今年2回目の小学生・中学生が一緒になった合唱が行われましたのでその様子をお伝えします。

6才から15才の児童生徒が、同じ曲を一緒に歌う企画は、青森県広しといえどもなかなか無いのではないのでしょうか。また、弘前オペラで活躍されている小学校の中村純子先生と、中学校の須郷祐一教頭先生お二人から直接合唱の指導を受けられるというのも、これまたレアなケースだと思います。

こうした恵まれた環境の中で実施された第2回合同音楽は、前回同様すばらしい音の空間となりました。歌った曲は「瑠璃色の地球」。かつて松田聖子さんが歌った曲を混声合唱で表現しました。6才の天使のような歌声から15才の大人びた男女の声までがミックスされ、聴いた人にしかわからない新鮮な響きになるから不思議です。こうした歌声を聴いた9名の保護者の皆様から、たくさんの拍手をいただきました。

また、感想を発表してくれた6年の須藤桃花さん、中学1年の小田原雄真君は、小中の違いを受け入れながら、相手を大切に思う心の内を語ってくれました。子どもたち自身も、今回の企画に感



じるものがあつたに違いありません。

次年度以降、この企画を継続するかは未だ決まっていません。でも、平成30年度も実施することになれば、地域の皆様にも広くお知らせをして、歌声が一人でも多くの東目屋の方々に届くよう思案していきたいと思えます。(小学校教頭 鎌田悟)